

令和3年度 第2回松山市コンパクトシティ推進協議会（議案要旨）

これまでの振り返り（資料1ページ）

前は、「市駅前改変に向けた交通対策」、「社会実験の計画」、「実験の広報周知」を議題としました。

今回の議題は、「実験結果の分析・評価」、「市駅前広場の整備計画（案）」について、本協議会の下部組織である「松山市駅前改変検討部会」で、協議した結果をお諮りするものです。

第1号議案 社会実験の分析・評価（資料2～3ページ）

市駅前広場整備により、交通の流れが変わるので、実際に整備後の状況を現地に作り、「交通への影響」や「賑わい創出の効果」などを分析・評価し、今後の整備に反映することを目的として、2つのパターンの検証を行いました。

「交通への影響」の検証では、主要交差点での交通量調査や滞留長調査、ビデオ調査のほか、バス・タクシーの利用実態調査などを行い、「賑わい創出の効果」の検証では、歩行、滞留活動のビデオ調査のほか、周辺店舗や事業所、通行者や滞在者へのアンケート調査などを行いました。

その結果、「交通への影響」として、周辺道路交通の変化、郊外電車と市内電車の乗り継ぎ、バス・タクシー・一般車送迎・荷捌き車両・自転車の影響について、高い評価を頂いた点や課題等をまとめました。

また、「賑わい創出の効果」として、歩行者通行量の変化、通行者や周辺店舗の意見、広場に求めるものについて、高い評価を頂いた点や課題、市民ニーズ等をまとめました。

※詳細は3ページ右側の一覧表を参照ください。

第2号議案 市駅前広場の整備計画(案)（資料4～8ページ）

実験結果の分析・評価から、実現に向けての課題が確認されたため、この解決に向けた対策をまとめました。

その結果、市駅前広場の整備にあたっては、広場整備〈対策1〉に加え、周辺道路の交通円滑化〈対策2〉や、周辺の駐輪対策〈対策3〉の3つの対策を一体的に進めます。

広場整備〈対策1〉

コンセプトは「人の往来と賑わいを「つなぐ」松山の交通・交流拠点」～歩いて暮らせるまち松山の「シンボル広場」～とし、人の往来を「つなぐ」、人々の賑わいを「つなぐ」、松山の歴史・文化を「つなぐ」シンボル広場になることを目指して、具体的な整備内容をまとめました。

交通施設の機能配置については、社会実験で実施した交通実態調査やアンケート結果を踏まえ、実験時と比べ、乗車場（タクシー・一般車等）、バス乗降場、荷捌き場、身体障がい者用乗降場を追加で配置したほか、交流広場にはワークショップやアンケート等で要望が多かったベンチ、トイレ、豊富な緑を配置しました。

周辺道路の交通円滑化〈対策2〉

実験中は「千舟町通り」が通常より混雑し、それが発端となって、市役所方面や大街道方面の車列が延びたため、混雑の原因分析と対策案の抽出し、交通をスムーズにする3つの対策をまとめました

周辺の駐輪対策〈対策3〉

実態調査の結果を踏まえ、約500台分の駐輪場整備を行います。

整備箇所は2箇所、現在の市役所第四別館前の平面駐輪場を2階建ての立体式に変更し、駐輪台数を倍増させるほか、中之川通りの北側歩道を活用し、路上駐輪場を整備する予定です。

整備スケジュールは、広場整備は令和4年度から撤去工事に取り掛かり、令和5年度から東西ロータリーの整備工事に着手、そして、市内電車の線路移設後の令和7年度中から交流広場の整備工事を行い、令和8年中の完成を見込んでいます。